

香川県立香川東部支援学校
人権・同和教育部

教頭 多田 守

「がんばる」

普段からよく使う言葉「がんばる」。みなさんはどんなときに使っていますか。「がんばれ!」と言われてうれしいときはどんなときですか。一方、「がんばれ」と言われたくないのはどんなときですか。また、自分自身に対して、「かんばるぞ」と言い聞かせるときがありますか。場面や用途はいろいろだと思いますが、日常生活で無意識に使うことが多いのではないのでしょうか。

以前、大学の先生に「今は何をがんばるの?」、「自由に取り組んで楽しんだらいいじゃない。」と助言をいただいたことがあります。どんな状況だったのかは覚えていないのですが、その時とても衝撃的だったのを今でも覚えています。そのときから私の中で「がんばる」の捉え方が少し変わり、使うときに少し意識するようになりました。

「がんばる」という言葉を広辞苑で調べてみると、「我意を張り通す」、「忍耐して努力する」、「場所を占めて動かない」とありました。一方、別の方法で調べてみると「自分のもてる力を存分に発揮し、目標達成のために活動する」、「困難に対してじっと耐えて容易には諦めず、それを継続させる」とありました。

日常生活の中でも、違和感を覚えてしまうことがあります。例えば朝の会での「今日も一日がんばりましょう。」とか、お楽しみ行事の校外学習や修学旅行の事前学習における、「みんなでがんばってしおりを完成させましょう。」などの言葉掛けです。「今日も一日楽しく学習しましょう。」とか、「みんなで協力して仕上げましょう。」などと声をかける方が、気持ちよくスタートできるのではないのでしょうか。このように、日常における「がんばる」という言葉の使い方を意識してみてはいかがでしょうか。

本校の校訓は「明るく たのしく のびのびと」です。数年前に初めて本校に赴任して校訓を知ったときは、東部の子はいつがんばるのかと思いました。そのころの私はがんばって成長することこそ、支援学校の基本だと思い込んでいたので、部活動や作業学習などで、子どもたちに「がんばれ」と言い続けていました。しかし、今では歩き疲れた人を見かけたときに「がんばれ」とは声をかけず、「お疲れ様、いっしょにいこうよ。」と声をかけるように努めています。

人権作品展の様子

11月30日の若竹祭に向けて、各学部で人権作品を制作しました。出来上がった作品は、図書室前に掲示しました。ここでは、児童生徒が人権作品を制作している様子を紹介します。

○小学部○【ともだちのき ～ともだちのよいところ・すきなところ～】

9月にあった人権擁護委員さんによる人権教室では「友達と仲良くする」ことの大切さを学習しました。そこで、友達のよいところや友達への感謝の気持ちなどを考えてハートの画用紙に書き、「ともだちのき」を制作しました。友達が頑張っている姿や友達と手をつないでいる写真などを見ながら、友達のよいところや素敵だと思うところを考えて書くことができました。友達からほめてもらおうと、「うれしい」「ふわふわな気持ちになる」と答える児童もいました。また、授業のなかで「けんかはダメ」、「仲良し」と、友達と仲良くすることの大切さを思い出す様子も見られました。ハートが満開の「ともだちのき」が完成しました。子どもたちが書いたハートを見ると、温かい気持ちになります。



○中学部○【ありがとう】



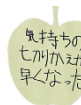
「ありがとう」をテーマに学級ごとに話し合い、一人ひとりがハートの画用紙に自分の感じたことや考えたことを書きました。「あなたは、どんなときに『ありがとう』と言いたくなりましたか。どんなときに『ありがとう』と言いましたか。どんなときに『ありがとう』と言うべきだと思いますか。」という問いかけに、家で母親を手伝って「ありがとう」と言われてうれしかった話や、誕生日プレゼントに対するお礼を言った話がでたり、給食がおしくてうれしいという話から感謝しようとみんなで話し合ったり、実際に体験した場面を思い出しながら楽しく話し合うことができました。日常の何気ない体験のなかにある心温まる感謝の気持ちをたくさん掘り起こして書き留めることができました。



○高等部○【実りました】



「実りました」をテーマに、自分の成長を感じたり、努力が認められたり、そのままの素晴らしさを認めてもらったりしたことなどを、りんごの形のカードに記入しました。なかなか自分の成長を見つけられない生徒も、日々努力していることを友達が知ってくれていたり、自分でも気付いていなかった成長を友達が見つけてくれたりと、友達の様子に関心をもちながら、お互い切磋琢磨し、成長していることがうかがえました。また、様々な活動や経験を振り返る中で、自分の成長をあらためて実感できた生徒もいました。出来るようになったことを指導者にほめられ、うれしそうにカードに記入する姿も見られました。



保護者研修会の様子

10月にPTA役員や親の会の保護者の方を対象に、人権に関する研修会がありました。さぬき市教育委員会の松原伸二先生を講師にお迎えし、身近にある人権について考えました。

グループワークでは、マップのイラストを見ながら、点字ブロックの上に自転車が置いてあるなどの「これは気になるなあ」と思うところや「人にやさしいなあ」と思うところを見つけていきました。普段は気付かなかったり、思いもよらなかったりすることも、人権という視点でみることで気付くことが多かったようです。また、家制度や六曜など昔から言われていることをそのまま信じてしまうことが、知らず知らずのうちに差別や偏見につながっていることもあるということが分かりました。まずは、「これはおかしいな」と気付くことや人権の視点で考えることが大切だと感じ、そこから少しずつでも行動にうつしていきたいと思いました。

活発な意見交換がなされ、充実した研修となりました。



民生委員交流会の様子

5月の全校集会で民生委員さんを紹介し、10月には生徒会役員や競技部の生徒と一緒に、朝のあいさつ運動に参加していただきました。11月の若竹祭では、長尾地区だけではなく、さぬき市の民生委員さんも来校してくださいました。各学部でも、楽しい交流が行われたので紹介します。

○小学部○【各学級で交流】

7月の暑い中、民生委員の方々に来校していただき、小学部の児童と一緒に交流会を行いました。体育館で一緒に歌に合わせて手遊びをしたあと、各学年に分かれて交流を行いました。6年生は小学部最後の交流会ということで2名の民生委員さんと一緒にTボール大会に臨みました。対抗戦では相手チームの民生委員さんから得点を取るべく挑み、バットを振り、ボールを持つ民生委員さんから逃げ、ホームに戻って喜んだり、タッチ・アウトになり悔しくて泣いたりする姿が見られました。

毎年、同じ民生委員が来校してくださっているおかげで、どの学年の児童も民生委員さんの顔やお名前を覚えており、楽しく活動することができました。



○中学部○【南川キャンプ ～ボッチャでGO!!～】

1、2年団が、宿泊学習2日目となる9月20日（金）に南川キャンプ場で5名の民生委員の方々と一緒にボッチャの道具を使ったゲーム「ボッチャでGO!!」を楽しみました。コロナ感染症の影響で休止していましたので、久しぶりの宿泊キャンプとなりました。初めてのテント泊や友だちと泊まるわくわく気分などのために明け方まで寝られなかった生徒もいましたが、その疲れも見せず大張り切りでゲームに臨みました。民生委員の方々も加わり3班に分かれてトーナメント形式で得点を競い、最後の1試合までどのチームが勝つのか分からない大接戦となり、会場は歓声や応援の声にあふれて大盛り上がりでした。まだまだ残暑の残る「暑い」中、「熱い」試合を繰り広げ、「温い」交流を深めることができました。



○高等部○【キンボールで交流】

12月5日(火)、1～3年生の保健体育の授業に、5人の民生委員さんが参加してくださいました。本校生のチームに民生委員さんが入り、キンボールの試合を行いました。

キンボールは、「赤」や「ピンク」など色の名前で分けられたチームの選手が、相手チームの色を叫びながら直径122cmの大きなボールを手で打ち、呼ばれた色のチームは、打たれたボールを床に落とさないようにキャッチするという競技です。

民生委員の皆さんが、見事なチームワークで大きなボールを受け止めたり、温かい声を掛けてくださったりするうちに、緊張していた表情の生徒も笑顔になっていきました。はつらつと競技に参加される姿にパワーをいただきました。



本の紹介

「わたしのせいじゃない せきにんについて」

文:レイフ・クリスチャンソン 訳:にもんじ・まさあき

絵:ディック・ステンベリ 出版社:岩崎書店

子どもたちの集団から少し離れたところで、一人の男の子が泣いている。なぜ泣いているのか?他の子どもたちが知っていることや意見について発言するが、皆口をそろえて「わたしのせいじゃない。」と言い張る。全員の主張が終わると内容が一転して、社会問題の一場面を切り取ったモノクロ写真へと切り替わる—。

物事の責任について考えるきっかけを与えてくれる一冊です。

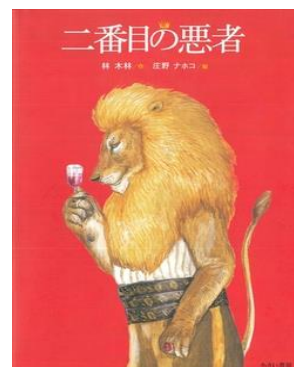


「二番目の悪者」

作:林木林 絵:庄野ナホコ 出版社:小さい書房

この絵本は、金色のライオンが国の王様になるために、銀色のライオンの信用を失墜させようと、悪意ある噂話を流したことで起こる悲しい物語です。噂話を信じた動物たちのおかげで、金色のライオンは王様になりましたが、国は大混乱の末、滅びてしまいました。動物たちが「金色のライオンのせいで国が滅びた。」と言い合います。しかし、悪いのは金色のライオンだけでしょうか。噂話の真相を確かめなかった動物たちは、悪くないのでしょうか。

噂話を誰かに話す前に、少し立ち止まるきっかけになる一冊です。



第75回全国人権・同和教育研究大会に参加して



晴れた日の白山

人権・同和教育主任 内藤 恵子

第75回目となった大会は、「『差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう』～部落問題を解決し、人権文化の創造をはかるために、同和教育の充実と発展をととして人権教育・人権啓発を構築していこう～」という大会テーマのもと、11月30日と12月1日の2日間にわたり開催されました。熊本市民会館を全体会場とし、分科会は熊本県、福岡県、鹿児島県にまたがる22会場に分かれて行われました。その中で、大牟田文化会館小ホールで開催された「進路・学力保障 子どもたちの未来を拓く進路・学力保障をどう進めているか」を討議課題とした第3分科会第3分散会に参加し、小学校2名、中学校1名、高等学校1名の合計4名の発表を聴きました。

どれも素晴らしい発表でしたが、ここでは、福岡県の生活つづり方の取り組みについての発表について書かせていただきたいと思います。児童・生徒の何気ない日常の心の動きを大切にすることが教員として忘れてはならないことであると改めて感じさせてくれる発表でした。

母親と散髪屋に行って髪を短く切った話。自分の誕生日に家でケーキを食べたり、カツカレーを食べたり、おめでとうと言われてうれしかった話。家族が階段を上がってくる音を聞いて誰が上がって来ているのかわかる、いろいろな音があるという話。母親とスポーツ店に制服を買いに行ってお店の人に中学校で大きくなるから、大きめにした方がいいと言われた話。どれも、日常の中で起こった出来事を素直に書いている文章です。先生と不登校気味の児童が、放課後の学習会で言葉を交わしながら文章がつづられていく様子は、とても素晴らしいものでした。保護者はもちろん、兄弟児や進学していく中学校などへの配慮もしながら学習会を進めていく様子も、児童への思いやりにあふれていました。「ひとがひとをつないでいく」「つながりを大切にしながら地道にがんばっていきたい」「子どもたちが自分や自分のくらしを見つめ、自分自身を大切にできる」など発表のなかで発せられるメッセージは、非常に印象深いものでした。

本校の人権・同和教育部でも今年度、学校生活の中で児童・生徒の自尊感情を高め、他者を尊重する心を養い、人権意識を育てることを目標に活動してきました。本校での新しい標準服の導入にも合わせて LGBTQ などについて職員研修を行い、人権学習にも取り入れました。人権作品展では小学部、中学部、高等部がそれぞれ児童・生徒が自分自身を見つめ、自分を好きになれるようなテーマを工夫しました。一つひとつが小さな一歩かもしれませんが、さまざまな機会をととして取り組んできました。これからも児童・生徒に寄り添い、ともに学んでいきたいと思っています。